

株式会社アイ・エム・ジェイ

東京都目黒区青葉台 3-6-28

代表取締役社長 櫻井 徹

モバイル端末の保有動向に関する調査

—ガラケー(※)でインターネット閲覧をする率は 37.0%でスマートフォンの半分以下—

株式会社アイ・エム・ジェイ(本社:東京都目黒区 代表取締役社長:櫻井 徹 以下、IMJ)は、「ガラケーユーザーの利用実態調査」の予備調査として、「モバイル端末の保有動向に関する調査」を実施いたしました。

調査期間は 2013 年 3 月 14 日～3 月 21 日、有効回答数は 26,418 名から得られました。

※本レポートにおいては、「スマートフォンを除く従来型携帯電話」のことを「ガラケー」と統一して記載致します。

調査の狙い

近年のモバイル端末市場では、多くの新しいスマートフォン端末の発表や、スマートフォン向けの新サービスが続々と登場し、スマートフォンへの利用移行が進んでいると言われている一方で、ガラケーを利用し続ける人も一定数存在し、ガラケーユーザー向けのサービス提供も継続して行われています。

そこで IMJ では、ガラケーを継続して利用している人に対して現在の利用実態と今後の利用意向がどのように変化するかを把握するための調査を実施し、前編・後編の 2 回に分けて発表いたします。

今回の発表(前編)では、ガラケーとスマホの保有状況を明らかにし、次回の発表(後編)では、ガラケーユーザーに焦点を当てた調査結果を発表いたします。

調査のトピック

- ・ 現在の保有率はガラケー 51.8%、スマートフォン 40.9%、ガラケーとスマホの両方保有は 7.4%
- ・ ガラケーは 2 年後に 43.5%まで保有率が減少。「いずれスマートフォンへ買い替える」人も含めると ガラケー保有率は 51.8%からいずれ 34.0%まで下がると予測
- ・ ガラケーユーザーの 34.9%がスマートフォンへ買い替え予定
- ・ ガラケーでインターネット閲覧する率は 37.0%でスマートフォンの半分以下

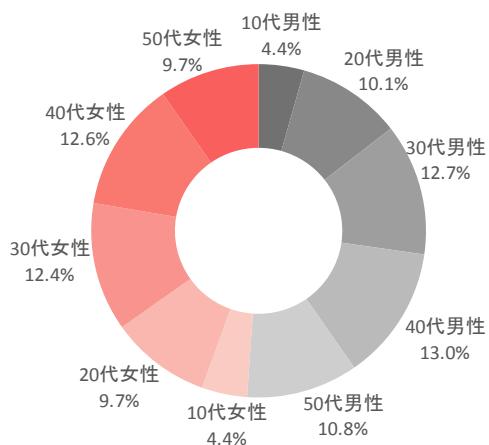
調査結果詳細

■調査概要

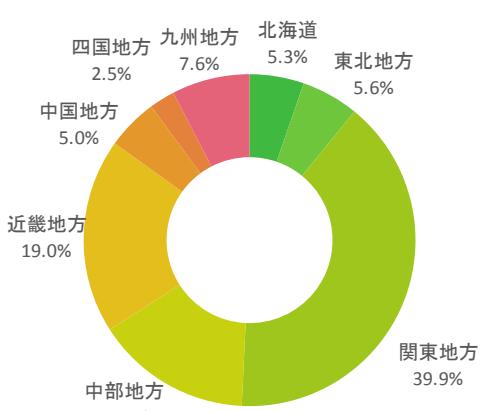
- ・調査方法 : インターネットリサーチ
- ・調査地域 : 全国
- ・調査対象 : 15~59 歳の男女 ※調査会社が保有する調査パネル
- ・有効回答数 : 26,418 サンプル
- ・調査日時 : 2013 年 3 月 14 日~3 月 21 日
- ・割付条件 : 年代別のインターネット利用率を「平成 25 年 2 月総務省全国男女推計人口」を元に算出し、割付を行った
※インターネット利用率は総務省「平成 23 年通信利用動向調査」を参照

■回答者属性

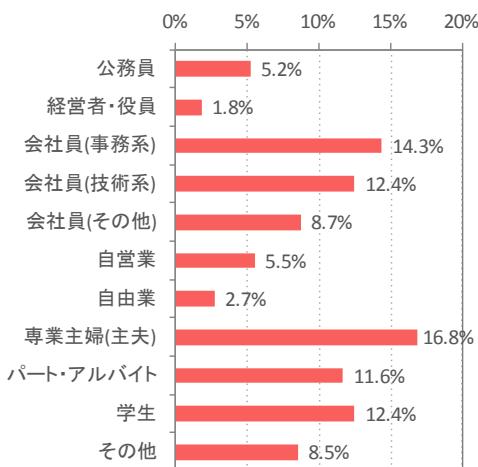
・性年代【n=26,418】



・居住地域【n=26,418】



・職業【n=26,418】



■現在の保有率はガラケー51.8%、スマートフォン 40.9%、ガラケーとスマホの両方保有は 7.4%

プライベートでのデジタル機器の保有率について尋ねたところ、パソコンが全体の71.4%、ガラケーが55.8%、スマートフォンが45.5%の保有率であることがわかりました。ガラケーとスマートフォンのみで比較すると、全体ではガラケー、スマートフォンの保有率はそれぞれ51.8%、40.9%で、ガラケーを保有している人の割合の方が高くなりました。一方、年代別に見ると、10代・20代ではスマートフォンの個人保有率がガラケーの保有率を上回っています。

図1 デジタル機器の保有率(複数回答) ※抜粋

【n=26,418】

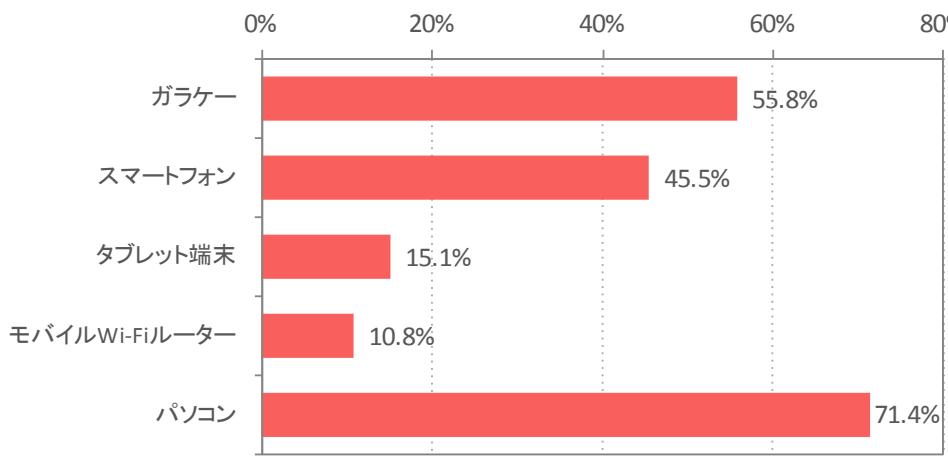
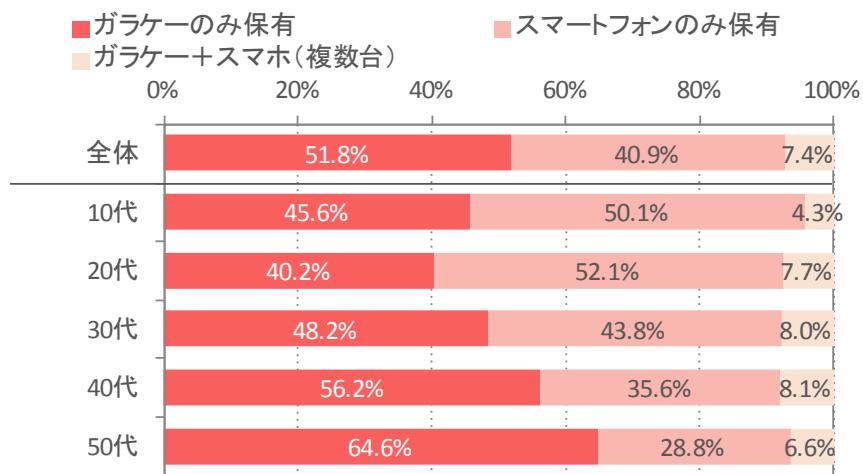


図2 年代別 ガラケー・スマートフォンの保有率(単一回答)

※プライベートでガラケーまたはスマートフォンを保有している人を全体とする



■ガラケーユーザーの 34.9%がスマートフォンへ買い替え予定

現在、ガラケーを個人保有している人に対し、今後の買い替え意向について尋ねたところ、ガラケーユーザーの34.9%が、いずれスマートフォンへの買い替えを予定していると回答しました。「半年以内にスマートフォンへの買い替えを予定している」と回答した人の割合は、買い替えを予定している人のうち31.0%を占めました。

一方で、今後もガラケーを使い続ける意向であると回答した人の割合は、「ガラケーに機種変更」(14.4%)、「特別な事情が無い限り買い替えない」(44.4%)の両者を合わせて58.8%と、現在ガラケーを保有している内の半数以上を占めました。また、スマートフォン保有者の今後の意向は、「スマートフォンへの機種変更」(56.3%)、または、「特別な事情が無い限り買い替えない」(34.5%)と、今後もスマートフォンを継続して利用する割合が非常に高いことがわかります。その一方で、何らかの理由でスマートフォンからガラケーへの買い替えを予定している人も5.3%いることがわかりました。

図3 ガラケーユーザーの買い替え意向(単一回答)
【n=14,739】

- スマートフォンに買い替える
- ガラケーを解約(複数台保有のため)
- スマートフォンを新規購入(追加)
- ガラケーに機種変更
- 特別な事情が無い限り買い替えない
- 今後、ガラケー・スマートフォンは持たない

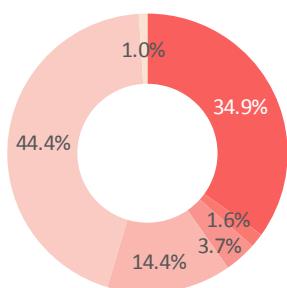


図4 スマートフォンユーザーの買い替え意向
(単一回答)
【n=12,026】

- ガラケーに買い替え
- スマートフォンを解約(複数台保有のため)
- ガラケーを新規購入(追加)
- スマートフォンに機種変更
- 特別な事情が無い限り買い替えない
- 今後、ガラケー・スマートフォンは持たない

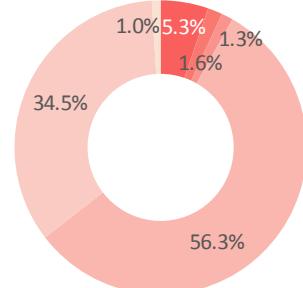
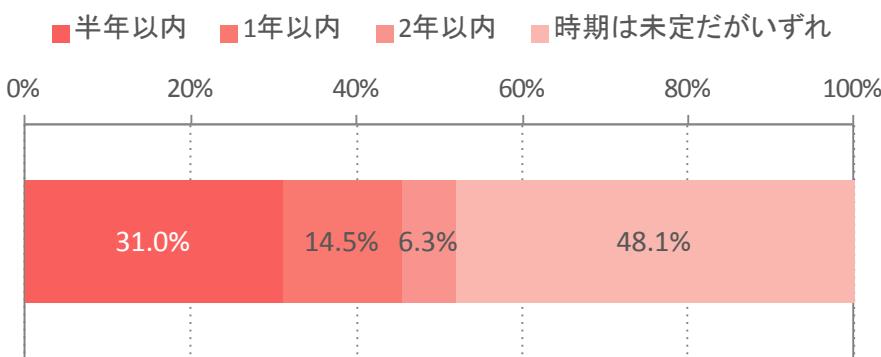


図5 ガラケーユーザー(スマートフォンへの買い替え予定)買い替え時期の意向(単一回答)

【n=5,137】



■ガラケーは2年後に43.5%まで保有率が減少

既述の今後の買い替え意向を踏まえた、ガラケー・スマートフォンの個人保有率は、1年後の保有率でスマートフォンがガラケーを逆転すると予測できます。現時点での買い替え意向からも、ますますスマートフォンの普及が進むとみられます。

また、時期未定を含む2年後以降の保有率は、ガラケーが34.0%、スマートフォンが57.3%、ガラケーとスマホの複数台保有が8.7%と予測されます。

年代別では10代、20代は2年後にはスマートフォンの割合が6割程度まで増加する一方、50代は2年後でもガラケーの保有率は55.9%、買い替え時期未定を含めても42.5%と、継続してガラケーを使い続けたい意向を持つ人は今後も一定数いると推察されます。

図5 ガラケー・スマートフォンの保有率予測(単一回答)

【n=24,929】

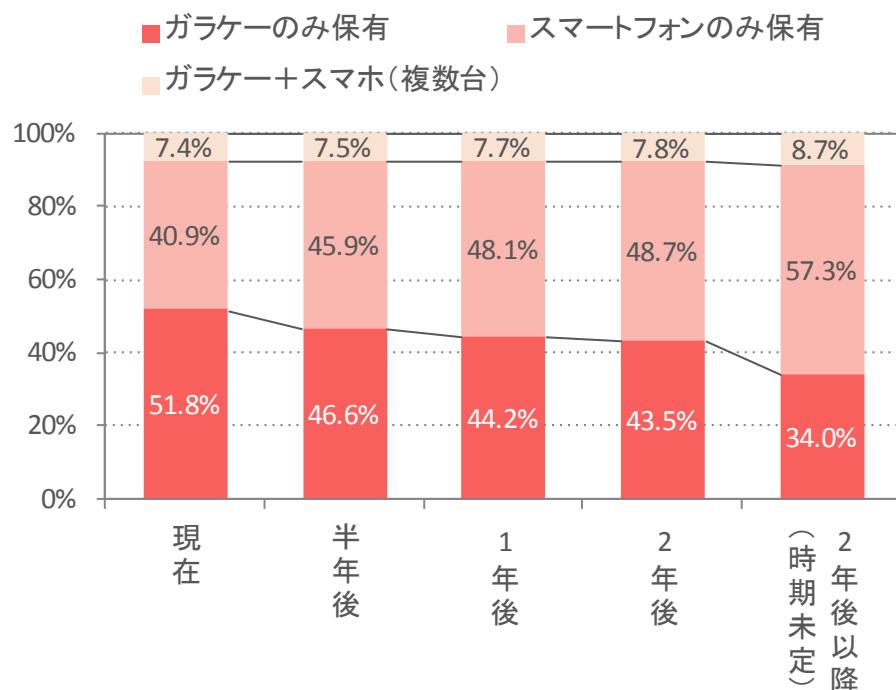
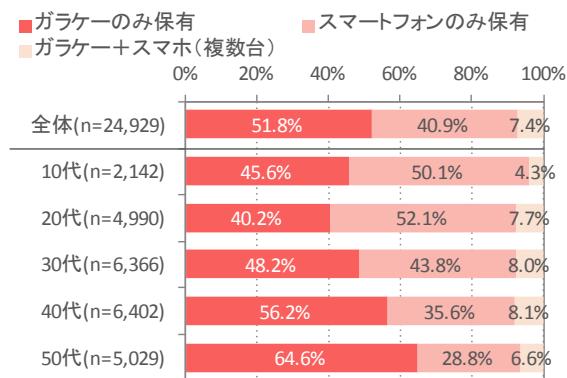
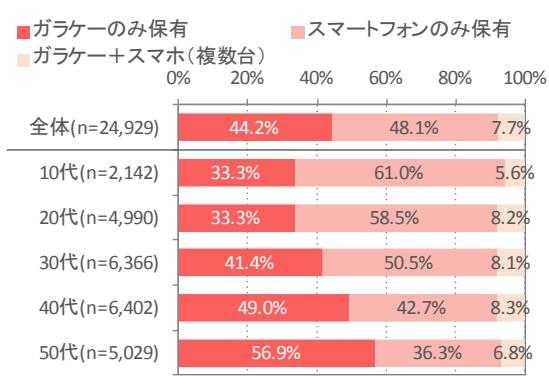


図6 年代別ガラケー・スマートフォンの保有率予測(単一回答)

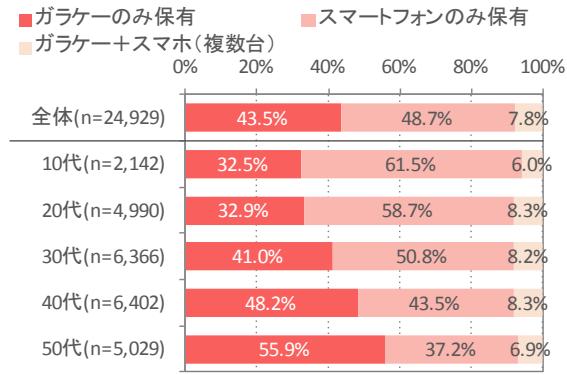
■現在



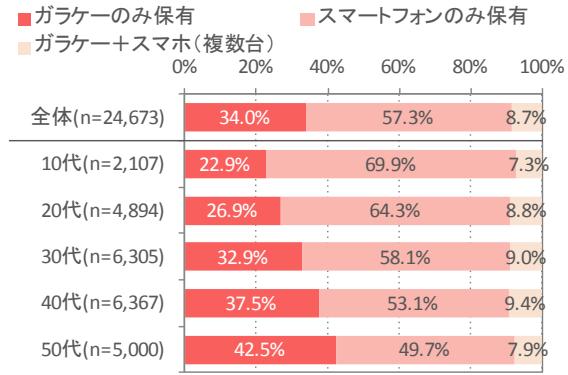
■1年後



■2年後



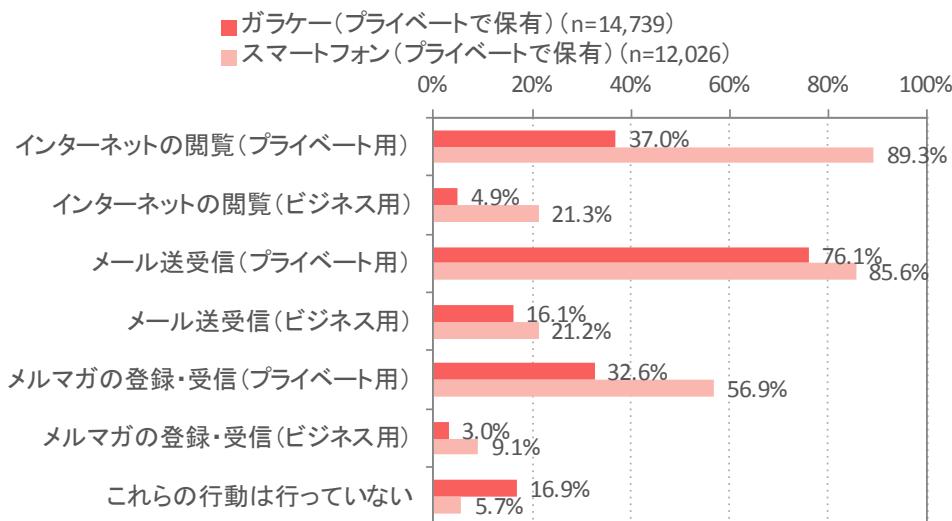
■2年後以降(時期未定)



■ガラケーでインターネット閲覧をする率は37.0%でスマートフォンの半分以下

現在保有しているガラケー・スマートフォンでどのような行動を行っているか尋ねたところ、スマートフォンではインターネットの閲覧(89.3%)やメールの送受信(85.6%)が8割以上行われています。対して、ガラケーではメールの送受信を行っている人の割合が76.1%で最も高く、インターネットの閲覧を行っている人の割合は37.0%と、ガラケーを使って情報収集する人が大幅に減少します。また、「これらの行動は行っていない」と回答した人の割合がガラケーでは16.9%と高く、ガラケーを使った情報収集行動そのものがあまり活発ではないと想定されます。

図7 保有機器における行動(複数回答) ※保有者のみ



株式会社アイ・エム・ジェイについて (<http://www.imjp.co.jp/>)

インターネット領域に軸足をおき、Web 及びモバイルインテグレーション事業における豊富な知見・実績を強みに、スマートフォンを含むマルチデバイス対応、更には戦略策定・集客・分析(Web データ解析・効果検証等)まで様々なソリューションをワンストップで提供することで、顧客のデジタルマーケティング活動における ROI(投資対効果)最適化を実現いたします。

※ 文中に記載されている会社名、商品名は各社の商標または、登録商標です。

※ 掲載されている情報は発表日現在の情報です。検索日と異なる可能性がございますのであらかじめご了承ください。

※ 画面写真データ等をご用意いたしております。お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

調査に関するお問合せ先

株式会社アイ・エム・ジェイ R&D室 Research Unit 担当:川野

TEL:03-6415-4311

報道機関からのお問合せ先

株式会社アイ・エム・ジェイ ブランド・コミュニケーション室 広報グループ

TEL:03-6415-4257 E-mail:irpr@imjp.co.jp